

イザナミ・イザナギの命 2

二神の神名は『古事記』には伊邪那岐神・伊邪那美神、「日本書紀」には伊奘諾尊・伊弉冉尊、更に『出雪国風土記』には伊奘奈栴命・伊奘奈弥命（伊奘那弥命とも）と記されている。

ここでは古事記の記述に基づいて、天と地が、自然が、それを守る神々がどのように生み出されたのか紹介する。

1 「天地初めてひらけし時」、まず、天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）高御産日神（たかみむすびのかみ）神産巢日神（かみむすびのかみ）などの五神、いずれも姿が見えない別天神（ことあまつのかみ）が現れた。次に姿が見えない国之常立神、豊雲野神の二つの一人神が現れ、そのあと男女一对の神が五組現れる。この十二神を神世七代と呼ぶ。その最後が伊邪那岐神と伊邪那美神である。

2 この二神は天之御中主神の命により国生み、神生みをする。この二神は夫婦神である。（今までは一人の神の神力で神々が生まれた。これを化成型の神と言う。二人して生み出されるのはこの二神が初めてで胎生型の神である。）

二神は今の淡路島・四国・隠岐島・九州・壱岐島・対馬・佐渡島・本州を、続いて小島を含め計十四島を生む。これが大八島と呼ばれた日本の国土であり、又そこで生活を営む人間に必要な森羅万象をすべて整える。

3 次にそれらを支配し、守護する神が必要であることから、家屋を司る神、山の神、野の神、水の神、海の神、舟の神、風の神その他あ

らゆる物の守護神三十五柱の神を生んだ。

4 イザナミが生んだ二八番目の神が火の神『火の迦具土神』（ひのかぐつちのかみ）である。（この神は火難除けの神として現在町内の数柱に祀られている。）

5 この火の神を生んだ時に、身体に大火傷をし、瀕死の状態になる。しかしながらまだ生み続け、口から吐いたものから鉾山の神（金山彦神・全山姫神）が生まれた。この神が「たたら」の守護神として信仰されて来た。そしてイザナミは遂に神避る。その神は出雲国と伯耆国との境にある比婆山に葬られた。

6 イザナギはイザナミに会いに死後の世界である『黄泉国』に行き「まだ二人してつくる国は残っているので還って欲しい」と請う。イザナギが禁をおかしてのぞき見ると、イザナミの体に八雷神が生じていた。これを見てイザナギはこの世に逃げ帰る。

7 イザナギはその後あの世の「ケガレ」を祓うため「みそぎ」をする。その時も多くの神々を生む。左の目を洗った時に生まれた神が天照大御神、右の目を洗った時の神は月読命、鼻を洗った時に生まれたのが須佐之男命である。この三神を三貴子と呼ぶ（化成神）。ここからアマテラスとスサノオの話に移っていく。

「神」とは、「人間では出来ない事、はるか人間の能力を越えた超能力、人智を以てはかることの出来ないかくれた存在、また人類に禍福を降ろすと考えられる威霊」であり、人や集団の心の中に生まれた尊い存在である。古代から猿政山を中心とする広い地域の人々は、生きていくための数多くの恩恵を受けて来ている。長い生活の中に御坂山（神山）を意識し、二神を祀り、更に「だたら」製鉄に関わる金屋子神も加わって、一層の信仰が深まり広がったのではなからうか。